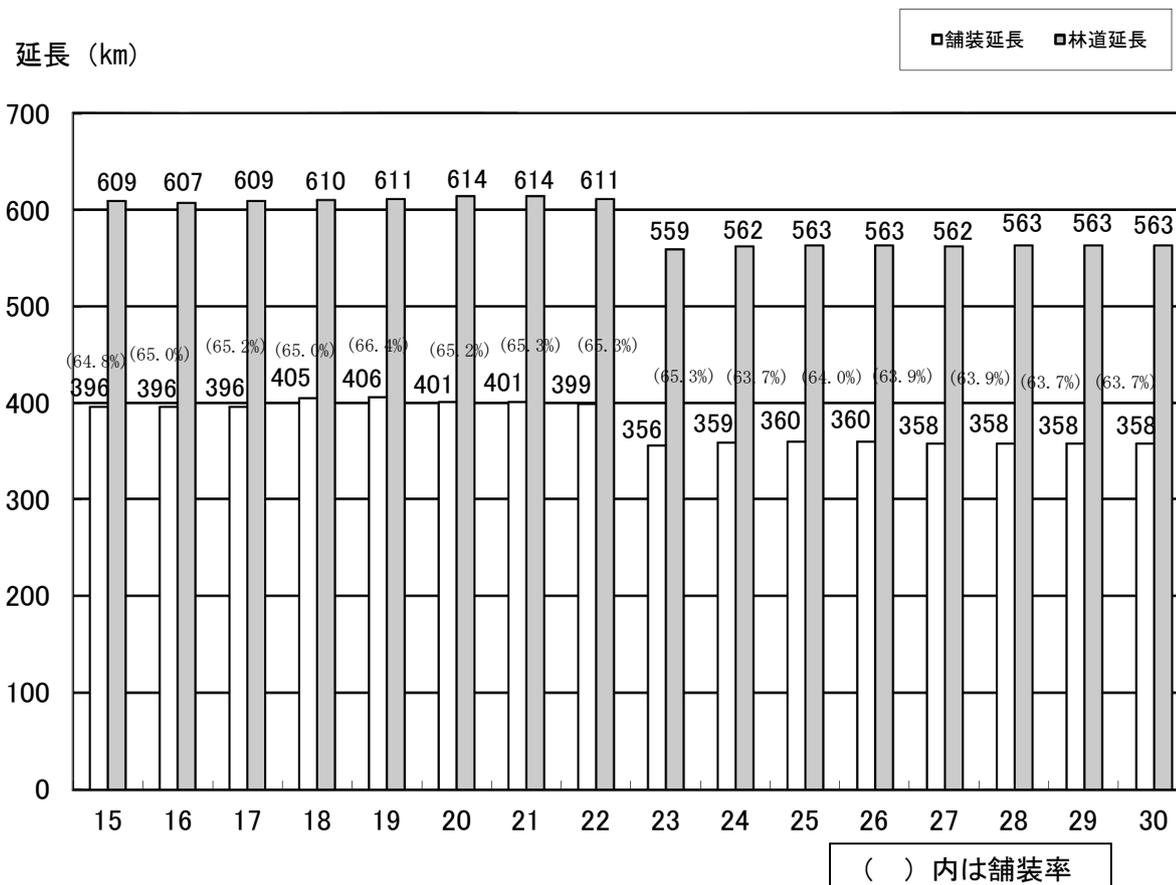


## 4. 基盤整備と林業機械

### (1) 林 道

—森林資源の活用基盤としての林道整備—

林道の延長及び舗装延長の推移（全幅員3.0m以上の自動車道）



林道は、多面的機能を有する森林の適切な整備及び保全を図り、効率的かつ安定的な林業経営の確立を図る一方で、森林の総合利用の推進、農山村地域の生活環境の整備、地域産業の振興等にとって重要な役割を果たしている。

このため、地域森林計画に基づき、林道整備を積極的に推進しており、平成30年度は1路線、1箇所在林道を開設した。

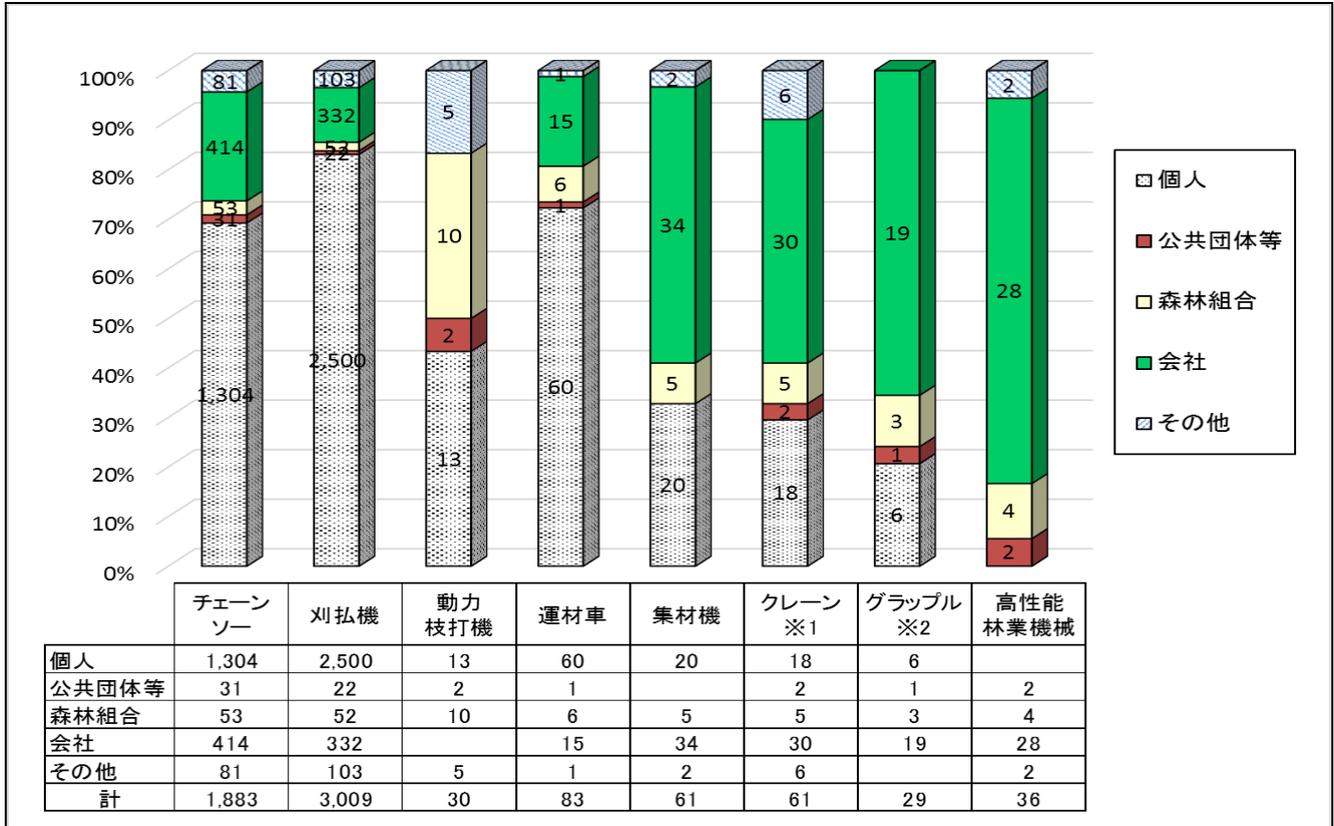
平成30年度末の林道（自動車）の総延長は562,514mであり、林道密度（森林面積1ha当たりの林道延長）は4.2m/haとなり、平成46年度の整備目標7.5m/haに対し約56%の進捗となっている。

※ 林道延長及び舗装延長は、平成31年3月31日現在の林道台帳の集計値による。

## (2) 林業機械

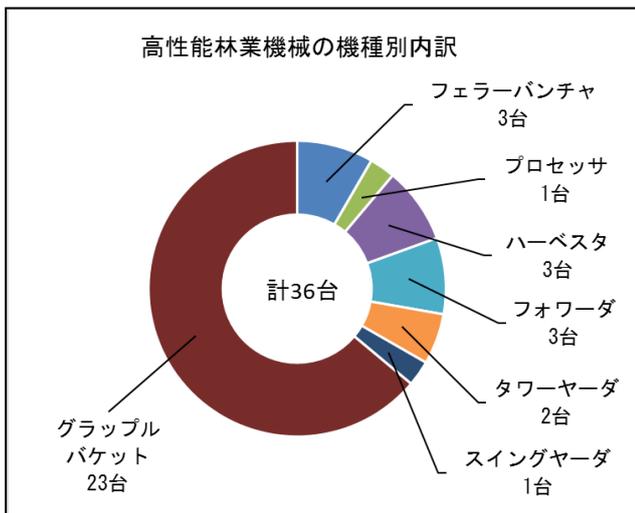
—労働生産性を高める林業機械—

主な林業機械の保有状況（平成30年3月31日現在）



※1 クレーンはトラック付を含む

※2 グラップルはトラック付を含む



高性能林業機械の機種別内訳については、グラップルバケットの保有割合が最も高く64%となっている。

(※) 高性能林業機械：複数工程の作業を1台で行える機能を持つなど、チェーンソー等の従来型林業機械に比べ、作業効率や作業への負担軽減の性能が著しく高い林業機械。高性能林業機械については、導入経費が高価なため、直接保有以外にもレンタル、リース等による活用も行われている。

林業機械は、生産性の向上、労働の軽減化を通じて林業経営の合理化・近代化に大きく寄与している。

林業機械の保有状況を見ると、刈払機が3,009台で保有台数が最も多く、次がチェーンソーの1,883台となっており、この2機種は林家等に一般的に普及している林業機械である。

一方、木材搬出等に使用される比較的大型の林業機械の保有状況は、集材機61台、クレーン61台、グラップル29台、高性能林業機械（※）36台となっており、法人所有の割合が高い。